

# 会議・視察報告

## 第3回北東アジアエネルギー安全保障フォーラム

ERINA 調査研究部主任研究員 Sh. エンクバヤル

2015年12月17日、韓国ソウル市のプラザホテルにおいて、韓国外務省と国連アジア太平洋経済社会委員会（UNESCAP）による「持続可能なエネルギー、エネルギーの相互連結、そして地域エネルギー協力」をテーマとした第3回北東アジアエネルギー安全保障フォーラムが開かれた。この北東アジアエネルギー安全保障フォーラムは、エネルギー安全保障分野における地域協力関係の向上を目的として2013年から毎年開かれ、過去2回とも韓国とUNESCAPの協力で開催された。エネルギー安全保障問題は、バク・クネ政権の主要な外交政策である北東アジア平和協力構想（NAPCI）の課題の1つである。

本フォーラムには、韓国、日本、中国、ロシア、モンゴル、アメリカの学界代表、産業専門家、地域当局者などが参加した。また、地元からの参加者も多かった。

討議は3つのセッションに分かれて行われた。セッション1「新時代の北東アジアのエネルギー安全保障」では、現在そして将来にわたりエネルギー市場に影響を及ぼす世界政治、地政学と環境についてさまざまな検討が行われ、地域のエネルギー市場における変化の可能性について意見交換が行われた。全米アジア研究所エネルギー安全保障プログラム研究部長のミッカール・ハーバーク（Mikkal Herberg）氏は、石油の低価格の可能性が高まりこの地域の中東への石油依存が強まることで、北東アジアのエネルギー安全保障の見通し、とりわけ石油に関しては大きなリスクが残ると述べた。エネルギー管理センター長で国際研究部教授のキム・ヨンキュ（Younkyoo Kim）氏は、北東アジアは世界最大の最も安定したLNG輸入市場であり、この地域が世界のLNG市場において大きな役割を果たし、ロシアのアジア側の資源と、中国、日本、韓国、北朝鮮の需要は、経済的パートナーシップの大いなる可能性を生み出すと述べた。ブルームバーグ・ニューエネルギーファイナンスのアジア太平洋長であるジャスティン・ウー（Justin Wu）氏によれば、クリーンエネルギーのシェアはさらに大きく伸び、2040年には再生可能エネルギーが12.2兆ドルの発電投資の65%を占めるようになるという。筆者は、

北東アジア地域における脱炭素エネルギー供給に関する課題について発表を行い、この地域が世界の2℃目標に従って炭素収支の限度内に留まれば、石炭は2030年までにその需要を完全に失うことを述べた。

セッション2では、地域エネルギー相互協力とエネルギー安全保障に焦点が当てられた。韓国電子技術研究所電源装置相互接続事業長のユン・ジェヨン（Jae-Young Yoon）氏と、UNESCAPのエネルギー安全保障・水資源部門長のリユー・ホンベン（Hongpeng Liu）氏は、いずれも北東アジア地域におけるエネルギー協力と安全保障を支援する政府間メカニズムの必要性を説いた。中国国家グリッド社世界エネルギー相互連結事務所副所長の陳葛松（Gesong Chen）氏は、世界エネルギー相互連結（GEI）と、北東アジアグリッド相互連結（NEAG）の概念について説明し、エネルギー安全保障、環境汚染、気候変動の課題に対してGEIが実現可能な解決策であり、NEAGがGEIの先端プロジェクトであることを強調した。GEIは長距離、大容量の大陸横断エネルギー送電スマートグリッドで、電力供給全体の80%は中央集約資源により作られるクリーンエネルギーである。韓国電力公社（KEPCO）送電計画部シニアマネジャーのキム・ホグン（Ho-Keun Kim）氏は、エネルギー協力のための課題と広報を作成し、北東アジア地域にエネルギー協議会を作ることを提言した。

セッション3では、北東アジアのスーパーグリッドの現状とさまざまな側面について検討された。みずほ情報総研の再生可能エネルギー部門シニアマネジャーの河本桂一氏からは、北東アジアにおける100%再生可能エネルギーシステムは達成可能であるが、風力が優勢で、太陽光は重要であるという調査結果が報告された。新羅大学教授のソン・ジンソ（Jinsoo Song）氏は、北東アジアスーパーグリッド調査を次の段階に進めて、参加各国政府からの政治的・財政的支援の元で、他国や組織と協力して夢のプロジェクトの実現を図ることを提言した。ロシア・エネルギーシステム研究所研究室長のセルゲイ・ポトバルニコフ（Sergei Podkvalnikov）氏は、北東アジア地域の送電システム相

互連結は、参加各国のシステムに恩恵をもたらすが、その実現の前に多くの政治的課題に取り組まなければならないことを指摘した。モンゴル・エネルギー省アジアスーパーグリッド閣僚対策チーム長の Ch. バトバヤル (Batbayar Chadraa) 氏は、モンゴルはこの地域への再生可能エネルギーの輸出を望んでおり、2016年の早い時期に ADB の技術支援を得て、電力相互連結ロードマップのための準備作業を進める予定であると述べた。

セッション4では、北東アジアの地域エネルギー協力増強の課題が話し合われた。エネルギー憲章事務局上級顧問のザファル・サマドフ (Zafar Samadov) 氏は、国際エネルギー憲章(現在70カ国が調印、8カ国が採択)とヨーロッパでの経験を紹介し、規制者と送電システムオペレーター間の協力が重要であると述べた。シンガポール国立大学エネルギー研究所エネルギー経済部副部長で主任研究員のシ・シュンペン (Xunpeng Shi) 氏は、ASEAN 電力グリッドの開発と、北東アジア協力に向けた関わり合いについて述べた。経済的・環境的利益が大きいにも関わらず、政治的信頼の欠如と国の安全保障問題のために ASEAN グリッド相互連結には時間がかかり、課題と障害が大きいことを強調した。従って、対話を通じた組織的な準備と協力のイニシアティブに早すぎるということはない。アジア太平洋エネルギー研究センター (APEREC) 研究員のフーマン・ペイマニ (Hooman Peimani) 氏は、市場や自然、安全保障的な要因によるガス輸入3カ国(日本、韓国、中国)への供給不足や供給停止などの短期的なガス緊急事態への対処として、北東アジア地域内での LNG 貯蔵設備の建設を提言した。

総括セッションでは、韓国外交部国際エネルギー安全保障局長のチェ・ジョンウク (Jong-Uk Choi) 氏が、北東アジアは中東という1つの地域からのエネルギー輸入に大きく依存していると同時に、北東アジアは世界のエネルギー供給者にとって大きな魅力のある市場であることを指摘した。しかし、この地域内の多国間協力は未だに初期段階に留まっていて、いくつかの2国間協力メカニズムがあるだけである。地域協力を進め、NAPCI の本質的な要素としてのエネルギー安全保障を際立たせる可能性がある事業として、北東アジアにおける石油ハブの導入、北東アジアにおけるガス貿易ハブについての議論、そして北東アジアのスーパーグリッドに関する研究を挙げた。さらに、チェ・ジョンウク氏は北東アジアのエネルギー安全保障協力に向けたビジョンとして、手始めに韓国・日本・中国の間で3カ国諮問機関を作るトラック1と、北東アジアエネルギー安全保障フォーラムを発展させ、地域内外の国々が参加するトラック1.5の設立を紹介した。

総合的にみて、今回のフォーラムは、地域内エネルギー安全保障問題の最近の進展について議論と情報交換を行い、域内協力を進める道を求める場として重要なイベントであった。その意味では、このフォーラムと、例えば ERINA の北東アジアエネルギー安全保障研究会や、2015年から毎年モンゴルのウランバートルで開催されることとなった北東アジアエネルギー接続性ワークショップのような、地域内のその他の議論の場とが協調する方法も有効だと思われる。

[英語原稿を ERINA で翻訳]

## 国際会議「一带一路と北東アジアエネルギー安全保障環境」に参加して

ERINA 調査研究部長・主任研究員 新井洋史

2013年に中国の習近平国家主席が提起した「一带一路」構想は、中国の発展戦略を象徴するキーワードとして、いまや世界中で話題となっている。国際的な認知度の高まりを受け、英語表記である One Belt and One Road も、OBOR や Belt & Road あるいは B&R といった略語で通用するようになっていく。当然のことながら、中国内外において「一带一路」を冠したシンポジウムやセミナーが数多く開催されている。年末も迫った2015年12月19～20日、こうした会議の一つとして、「一带一路と北東アジアエネ

ルギー安全保障」と題した国際会議が北京で開催された。主催したのは、中国社会科学院アジア太平洋・グローバル戦略研究院であった。ERINA から小職のほか、三村光弘主任研究員、南川高範研究員が参加した。以下、その概要を記し、感じたことなどを述べてみたい。

1日半にわたる会議は全4セッションに区切られ、それぞれ4～5人の報告者と3～4人の討論者を揃え、その後ディスカッションを行うという形で進行した。各セッションのテーマは、第1セッションが「一带一路と中国の